

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

出口(進路実現)に責任を持つ ①進路希望を確実に達成
②特別活動の振興
③国際交流の推進

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、自らの進路実現に関わる総合的な学習を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、

進路、特別活動、国際理解に重点を置いた活動を通して、課題の発見と解決するための資質・能力を育成する。

- (1) 自らの進路実現に関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技術を身につけるとともに、主体性を持って学校生活に関わりを持つようにする。
(2) 自らの進路実現と自己との関係から問いを見だし、調査や体験で得た情報を基に分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 自らの進路実現についての探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な考えを受け入れ、これから社会に関わり参画しようとする自覚を育成する。

総合的な探究の時間の学習評価

学期ごとに授業担当者会議で学習活動の評価の観点や指導上の課題を共有する。

プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価

振り返りノートによる評価

論理的思考や考察力を見る記述式テストの結果を評価

評価カードによる生徒の自己評価や相互評価

生徒の実態

- ・素直 真面目
・個人の考えを持つことができる。
・主体的に行動するのが不得意
・論理的思考力が不十分
・自分の考えを表現することが苦手

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・個に応じたきめ細やかな指導
・スクールカウンセラーの活用
・別室の準備
・教員間の「報告・連絡・相談」の徹底
・環境整備

目指す生徒の姿

- ・校内外を問わず、多くのことにチャレンジし、自分の可能性を探ろうとする生徒。
・自らの目標に向かって主体的に学ぼうとする生徒
・失敗を恐れず、積極的に自分の考えを述べるができる生徒
・多様な考えを受け入れ、社会に積極的に関わろうとする生徒

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

1年: 論理的思考を育成するための基礎学習、国際理解

- (1) 文化的背景の多様を受け入れつつ、様々な人が支え合い、協力し合っている。
(2) 必要な情報を収集し、類別して貯蓄する。
(3) 自己を見つめ、自分の個性や特徴を向き合おうとする。

2年: 日本が抱える自然災害問題について

- (1) それぞれには特徴があり、多種多様に存在している。
自然環境には様々な要因で変化する可能性があり、限りがあること。
(2) 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。
目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。
視点を決めて多様な情報を分析する。
学習してきたことを論理的に表現する。
(3) 探究を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとする。

3年:

- (1) 各自が興味を持ち、調べたいテーマを選び、本やインターネットを使って調べ学習や考察を行い、レポートを作成することで、情報収集能力・社会を見る目・考察能力を養う。
(2) レポートを発表することで、他者に理解してもらうためにはどのような説明をすればいいか、各自が工夫してプレゼンテーション能力を養う。
(3) 他者の発表を聞くことで、自分が気付かなかったことや興味を持たなかったことについても考える機会を得て、更に視野を広げる。

学習活動、指導方法等

1年: テキストを中心に基礎力を育成する。語彙の運用や聞く力・読む力、論理的に考える力を習得する。

探究に用いるツールとして、個人端末を用いたICTの活用方法を学ぶ。

2年: 与えられた課題を中心に探究活動を進める。ワークシート等を用いて課題の背景、知識を習得する。原則としてグループ活動する生徒の主体的な探究活動を、教員が巡回しつつ指導・助言に当たることとする。

3年: 「生活・社会」「環境」「国際問題・異文化理解」「日本語・日本人」「教育」「福祉」「政治・経済」「情報・メディア」「科学技術」「医療・看護」以上10分野から、各自が興味を持ち、調べたいテーマを選び、本やインターネットを使って調べ学習や考察を行い、レポートを作成し、全員がグループ発表する。その後選抜されたグループ代表によるクラス内発表を行い、更にクラス代表による学年発表を行う。その際、教員は生徒の発表について適宜指導・助言・評価を行う。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

進路指導部(9名) チャレンジプロジェクト委員(各学年1名)

- ・教材の研究・・・1年次においては「基礎を学ぶ段階」と位置づけ、探究の進め方や基礎的な知識・技能、その意義を理解するための教材を研究する。
2年次においては「深める段階」と位置づけ、基礎的な知識・技能を活用し、個々の関心への探究を行うための教材を研究する。
3年次においては「発展段階」と位置づけ、1・2年次に養成した力を更に伸ばす。社会参画するために必要な知識・能力(ICT技能を含む)・意識を高めていく。
・地域との連携・・・那珂市役所、市民協働課との連携。大学や企業との連携。